

小學讀本

一二

T1A1
10
(MO24)

文部省編纂

五十部限

小學讀本卷二

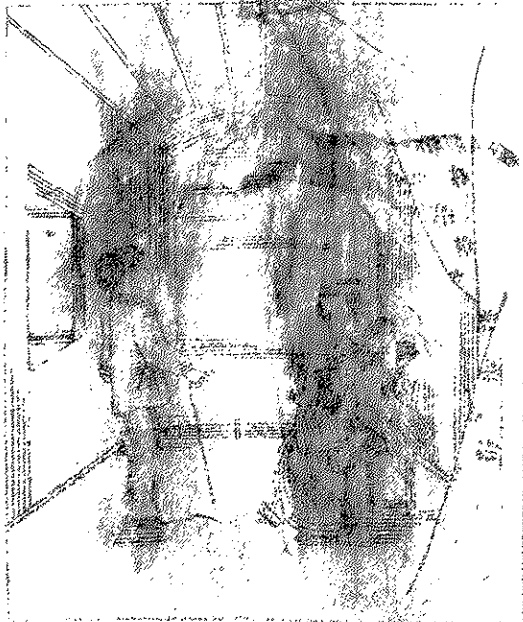
官許

糸翻刻

小學讀本卷之二

第一回

此女兒も、人形を拵てり、汝も人形を見しや。○此
 人形も愛らしき人形なり。○汝も人形を好むや。
 ○然り、我も此だ、これを
 好めり。○此女兒も、人形
 を拵てるや。○此女兒も
 人形を拵たすして、鞆を
 持てり。○人形も、亦衣裳
 を着て鞆をたきたり。

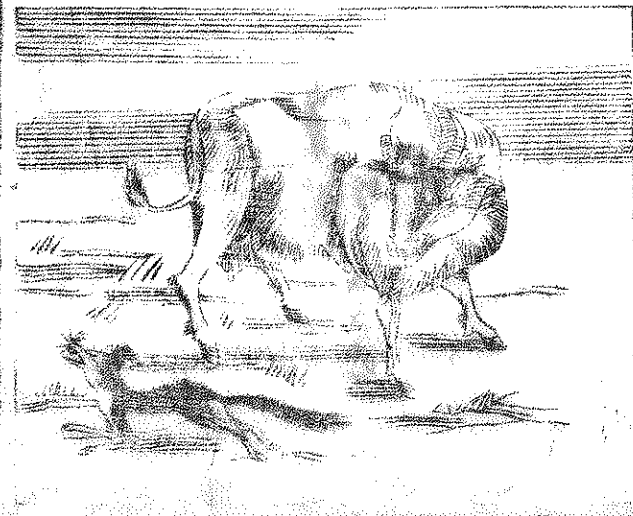


茲に四人の男兒あり、此中一人の男兒は、脇に大



鼓を懸けて、両手に撥を持
てり。○汝は、此男兒の、大鼓
を打つを見たりや、又其音
を開きしや、○我は、大鼓を
打つを見たりとも、進々に
遠きゆゑ、其音を聞くこと
なし。○一人の男兒は、旗を
持てり。○此四人の男兒は、
一行に並び立てり。

汝は、狐を見たりや、○此狐は、牛の首を走れり。○
我は、狐と、牛を見たり、されども、狐のみ、走りて、牛
を走ることふし。○狐は、狡猾なるもの、なるや、○
然り、狐は、甚だ狡猾なるもの、にて、人のをらざるを窺ひ、食
物を盗み去る。○此狐は、年老
いたるものありや、○否、年老
いたるものにあらず。○狐は、
雞を捕りたるや、○否、雞を捕
へ得ざりし。



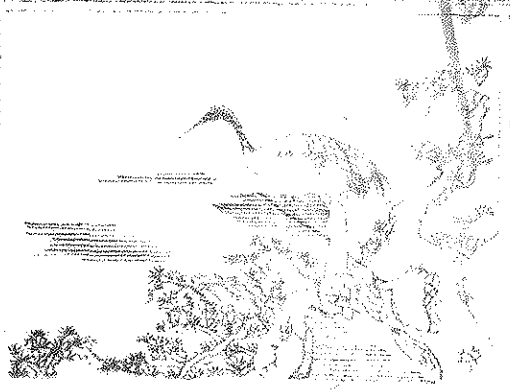
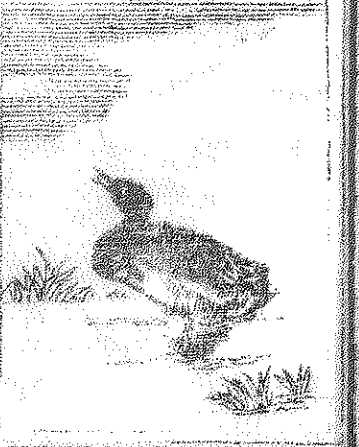
狐を捕りたるや、○否、雞を捕へ得ざりし。

狐を捕りたるや、○否、雞を捕へ得ざりし。



老いたる、牝雞を、鷺の子を、多く伴へり。○此鷺の
 子で、皆水の中へ、飛び入りたり。○此鳥を、水上に
 泳ぐことを、尤好めり。○然れども、牝雞を、溺れ沈
 まんことを、恐れて、岸の上に、揚
 げんと思ふ。○此牝雞を、心は甚
 だ憂ひ、悲めり。○されども、鷺の
 子も、牝雞の心を、量り知らざ
 て、氣隨に、遊べり。○牝雞を、何を
 心配せると思ふや。○此鷺を、我
 子と思ひて、悲めるなり。

茲に、成長したる、鷺あり。○鷺の
 嘴は、牝雞の嘴より、大くして、其
 足を、廣く故に、水に入りて、能く
 泳ぐことを、得るなり。



此圖を、何の圖なるや。○これ、鳥
 の巢にて、内は五つの卵あり。○此
 卵も、大なるを、必ず大なる鳥の卵
 なるべし。○巢を、大樹の枝に、懸れ
 り。汝も、此親鳥を見しや。○我も、只
 一羽の親鳥を見たり。

三
 百
 五
 十
 五
 文

此家も、何事をも知れりや、○これ、學校なるべ
 一、數多の男女兒も、此學校へ通へり、○汝も、小兒
 の遊び場に、出でたるを見たりや、○數多の小兒
 も、學校より出で、走る
 もあり、球を弄ぶもあり、
 或も凧を揚ぐもあり、
 或も輪を廻すもあり、
 ○男兒も、女兒も、學校に
 入りたるも、能く勉
 強すべし、○然れども、勉



強なる後、遊歩をもくしを得るふり、○小兒も
 勉強を了る後に、遊歩を許され、戯れ遊ぶも
 でき、誠に樂きことなるべし、

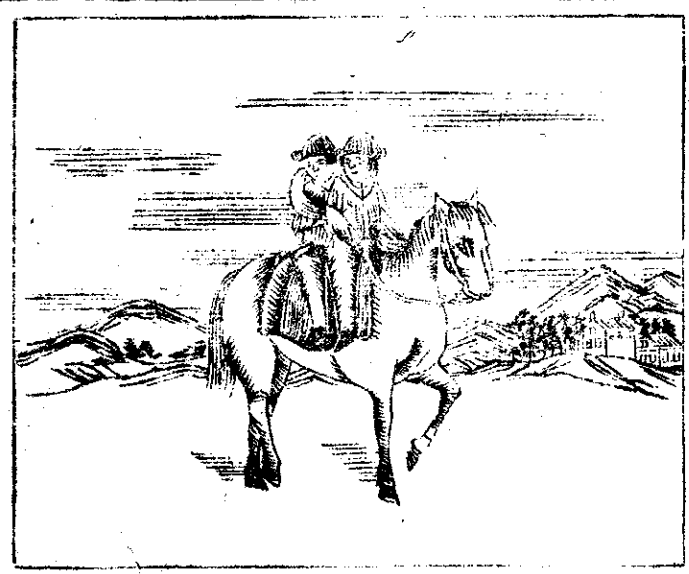


今、此子の、釣りたる魚も、鯉なり、
 ○汝も魚を、釣り揚ぐるときも、
 能く、心を用ゐるべし、釣糸を切
 らるゝことあり、○天も甚だ曇
 りて、少しく雨が降り來れり、○
 魚を釣るよも、雨天のときを、宜
 しくとみすや、○然り、少しく、雨降

りて、風ふく、暖うある日、和を宜しとす、○女は魚
 を釣るを以て、正しき道理と思ふや、○然り、魚を
 釣りて、食するも、正しき道理ふれど、釣りたる
 魚を弄びて、再び捨つるも、正しき道理にあらず
 男兒と、女兒とあり、○これ
 學校へ行く、途中あり、○今急
 ぎて、學校へ行くと、思ふゆ
 ゑ、男兒も、女兒を助けて、走
 り、○此等も、學校へ行くと、
 樂みと思ふや、○然り、此男兒



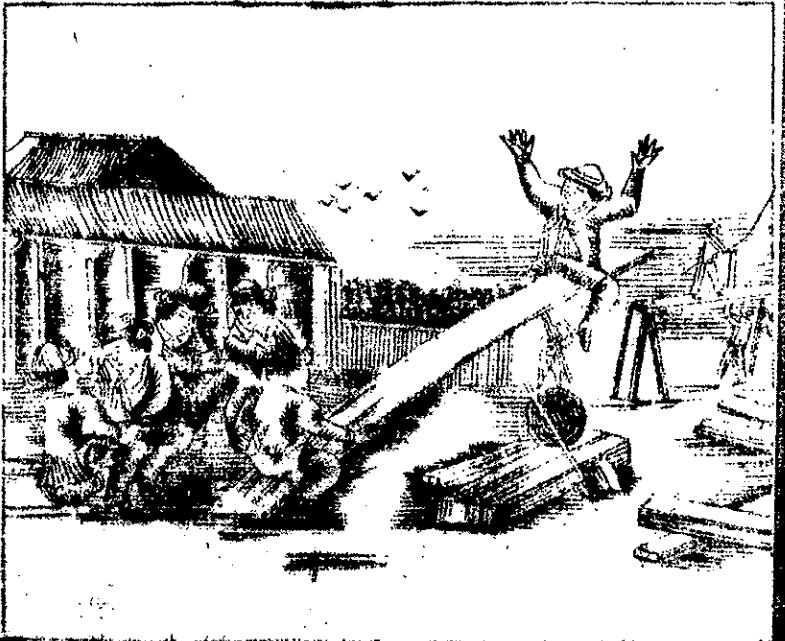
も、女兒も、善きものふれ、學校へ行きて、學文す
 ることを、第一の樂みと思ふあり、



此馬も、柔和なる馬ふれ、
 二人の小兒を、乗せて歩め
 り、○此馬を、走ると、思ふや、
 ○馬も、前の一足を、舉げて、
 何との一足を、下さんと
 して、走るにあらず、靜かに
 歩むあり、○前の小兒も、兩
 手に、手綱を持って、ども、只右

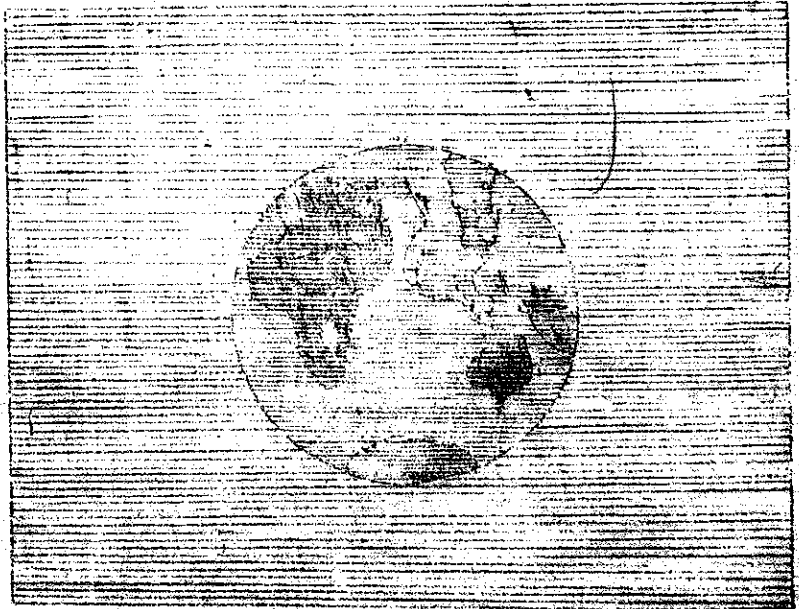
の寺のみ見えたり。○後の小兒を馬より落さ
 ことを恐るゝゆゑに、前の小兒を抱きをれり、
 此所を、大工の仕事場なり。○數多の大人を、仕事
 を爲してをれり。○二人の小兒を、此仕事場よ、來
 り板に乗りて、遊び戯れり。一人の小兒を、高き場
 かり、一人を低く、下がりたり。○汝を、小兒の傍に
 ある道具を、何と思ふや。○これを、斧と鋸なり。○
 汝を、此小兒等を、皆善きものと思ふや。○仕事場
 に、來りて遊ぶ小兒を、善きものにあらず。○今を
 遊ぶする時間にあらず、學文すべき時間なり。○

學文するときに、遊ぶを
 る小兒を、よきものにあ
 らず。○仕事場に、來りて
 遊び、戯れ、仕事の邪魔な
 ど、する小兒を、あしきも
 のなり。○汝等を、遊ぶの
 ときも、仕事場よ、來るべ
 からず、遊ぶ場にて、遊ぶ



第二回

我等の住居する世界を、
平たきものにあらず、實
を圓くして、球の如きも
のふり、故に世界を、地球
といふ。○此世界を、靜
ふるやうに、見ゆれども、
實を、動くものにて、毎日
一廻りづゝ廻り、一年に、
太陽の周りを、一廻り旋
るものふり。○太陽を、大なる球にて、世界に、光と



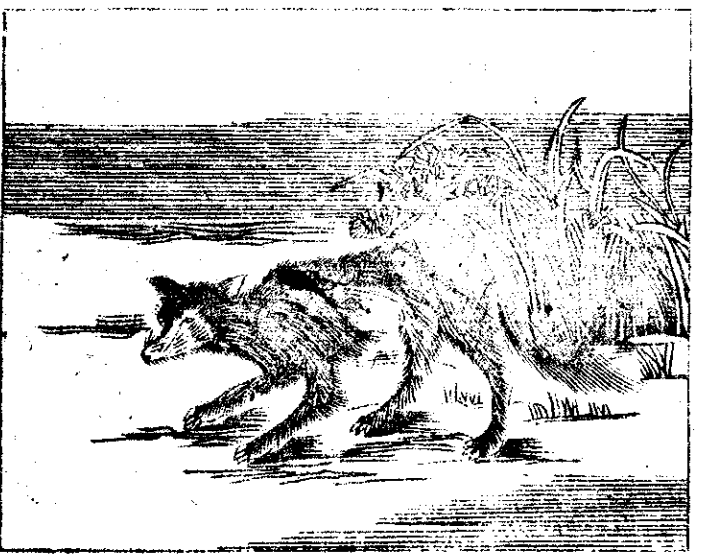
熱を興ふ。○我等、晝を、太陽を見れども、夜を見
ことふ。○汝を、何故に、夜に、太陽を見ざるこ
とを知れりや。○夜を、太陽の方に、向うて、さ
るゝ、見ることを得ざるふり。○月も、亦、球の如く
圓きもの、ふれども、太陽や、地球の如くに、大なる
光、○月を、元より、光なきもの、ふれども、太陽の光を、
受け、始めて、輝くものふり、

我等、一同に、草薙場に出て、來れり。○汝も、今日、雨
が降ると思ふや。○今日を、決して、雨が降ると
ふ。○小兒を、薙りたる草の上に、坐わりて、草を

妨るを見物す、○枯草を、
 柔うふる物ふれを、此上
 に遊び戯るを、樂きこと
 ぶり、○これ、牛馬の餌
 けれど、豕も枯草を食む
 るや、○否、豕も、枯草を食
 せ、生の草を喰ふ、

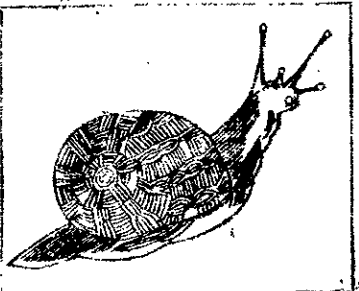


狐も、犬に似たる獸にて、平たき頭あり、其鼻と耳
 を尖りて、尾も甚だ長し、○此獸も、穴の中に住居
 して、晝を隠れ、夜に入ると、穴より、



出で、田畑の傍を、歩行を、○狐も、餌を貪り、獸に
 て、多く雞の雛を喰ふ、又好みて、桑の實、或は櫻の
 實を喰ふ、○雞を捕ふれを、
 忽ち穴に持ち行きて、てれ
 を喰ふ、○も、狩犬を見ら
 とき、穴の中に逃げ入り
 て、出づること、豕も、○犬に
 逐えらるるとき、穴に入ると
 とを得ざれを、犬に、噛み殺
 する、ことあり、

八世前々々々々
 八世前々々々々



蝸牛といふ蟲也、足ふきけゑに、歩む
 こと能えど、只地の上を匍匐するふ
 り、○此蟲は、背の上に、貝殻ありて、物
 に恐るゝとき、其中に縮み入る。○
 蝸牛の、動くとき、四本の角を出だす、其中二本
 の長き角の先、目あり、短き角の下に、口あり、
 ○此蟲は、冬に至ると、土の中に、埋まりて、春の至
 るを待ち、大抵四五月の間、土中に在るものあり、
 汝も、此圖を、奇麗なりと思ふや、○此處に、男兒と、
 女兒と、驢馬の在るを見たりや、○此處は、冬なり

と思ふや、又夏なりと思ふや、○樹の葉が茂りた
 るゆゑ、此處を夏なりと思へり、○男兒は、驢馬
 に、乘らんとす、○如何に、汝も、乗り易きと思ふや、
 ○驢馬も、小き馬なれども、小兒に、乗り難かる
 べし、○遠方の向ひは、荷車あり、
 ○汝も、此荷車を、何と思ふ
 や、○遠く、隔たりたるゆゑ、慥
 りと見分くること能はず、然
 れども、畑の小路に、ある故に、
 穀物の車ふるべし、



此圖に、画きたるものを、何なるや。○大人と、小兒
 にて、二人とも水中に立てり。○此等も、何をふか
 と、思ふや。○此人は、魚を捕ふるあり。○大人の釣
 りたる魚を、大なるゆゑに、強く曳くとき、糸の
 切れんことを恐る。○男兒の、持ちたるものを、何
 ぶりと思ふや。○それを、網の類にて、たまた、いふ
 言のあり。○男兒は、此網を、以て、魚を捕へんとす。
 ○大人の脇に、懸けたるを、何と思ふや。○これ、
 蓋のある籠にて、其中に、魚を入るゝあり。○此人
 の、あたる處を、思ふや。○思ふや。○人の膝ま

て、水に入りに、たると、ゆゑに、
 甚だ、深うらむ、も、深水
 ぶり、を、二人も、立つこと、
 船を、ぎるべし。○此河に、
 渡りたる橋あり、汝も、此
 橋を、何にて、造りたりと
 思ふや。○橋に、木、の橋
 と、石の橋と、鉄の橋あり
 ども、これ、木にて、造り
 たる、橋あり。



汝を、此男兒を、何歳ありと思ふや、○此男兒は十
 歳以上あり、○此男兒は、善きものあり、思ふや、
 ○否、仕事をたふさぎ、勉強もせむ、又遊歩も、た
 めて、休みをるゆゑに、
 怠りものあり、○此男兒
 を、何に、倚りて、何處を見
 るや、○此男兒の、倚りた
 るもの、大なる石の柱
 あり、又此男兒は何も見
 ず、只天をたがむるあり、



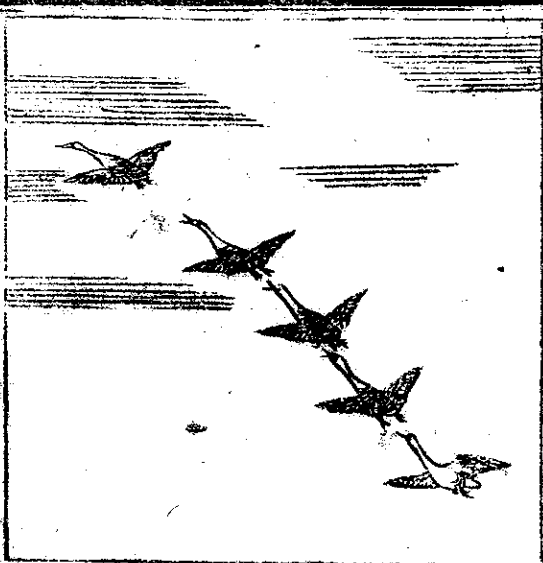
○總て、小兒に、勉強の時もあり、遊ぶ時もあり、
 ○此小兒の、かく、常に、勉強を、たふさぐるとき、成
 長の後、予とふることを、得ざるあり、
 茲に、又怠りたる、小兒あり、○彼れを、學校へ、行く
 と、云ひしが、何ゆゑに、學校へ行かざりて、途中に、
 遊び居るや、○いまだ學校へ、行くべき時刻の、來
 らざるや、○敢て、學校にて、誓古を、初まりたるを、
 此小兒の、行くべき、時刻あり、○此小兒を、何ゆゑ
 茲に、止まるや、○彼れを、犬に、乘り、又能の、怠りも
 のと、遊さんと、思ひて、茲に、止まるあり、○彼れの

書物を何處に在るや、○彼れを、書物を自分の家
 に忘れたり、○此故に、學校へ行きたりとも、誓
 を、ふきを得む、○善き小兒を、書物を、大切にふ
 て、學校へ行くを好む、誓古
 の時刻來れを、決して、途中
 に、止まることふ、○學校
 へ行きて、能く勉強して、學
 ぶゆゑに、屢々、等級を進む
 ことあり、

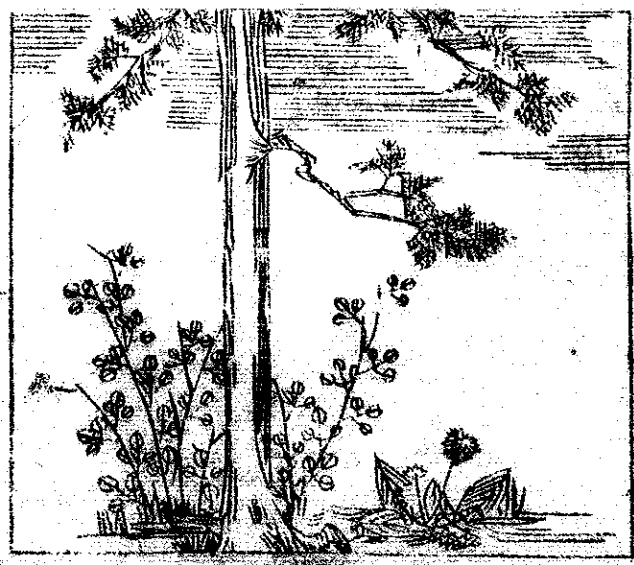


第三回

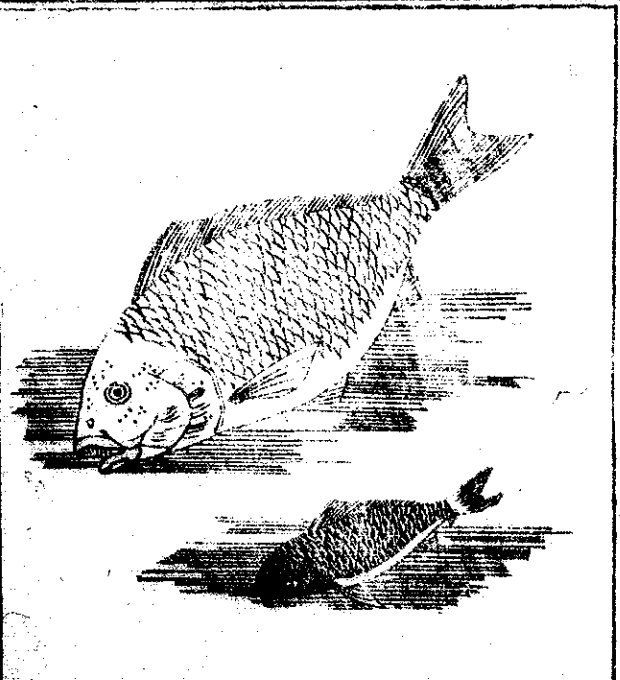
雁の列を、ふして、行く、圖ふり、○見るべし、一羽の
 雁を、導びきをふくと、其他の雁を、これ、随ひて、
 飛び行けり、○此鳥を、何處に、行くと、思ふや、○こ
 れを、濱邊に行きて、葦の間に、休み、或は、魚を、捕り
 て、食せんと、欲するあり、○
 雁を、何故に、冬を、來れども、
 夏を、來らざるや、○此鳥を、
 寒き地を、好むゆゑ、夏を、北
 の海に、居り、冬を、南の海に、
 來るあり、



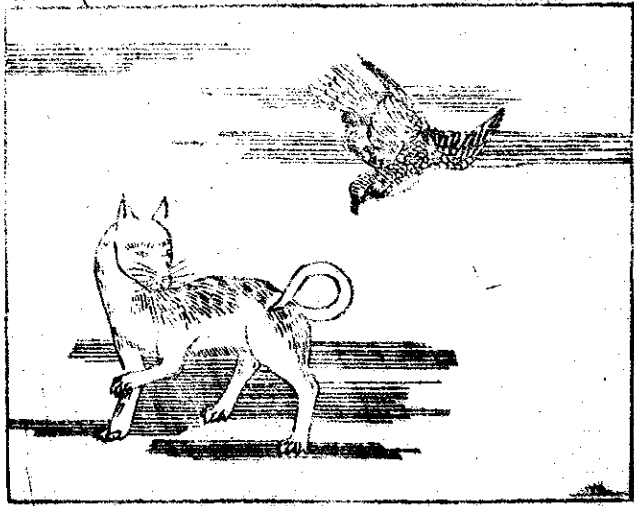
草と、灌木と、喬木あり、○草
 一、年限りにて、枯るゝも
 のあり、○灌木も、一年に生
 長して、其幹を、一年毎に、枯
 るゝ、木あり、○喬木とて、大
 に成長する、樹にて、一度伐
 り去れを、再び芽を出ださ
 ざるものも、ある、○此草と、灌木と、喬木を、合せて、
 植物と云ふ、植物も、生を保ちて、成長し、又死して、
 枯れ朽るものあり、○大の如く、物を思え、根



く、川より、食物を、吸ひ、排し、船く、呼吸を、し、
 鳥獸の如く、動くことなし、



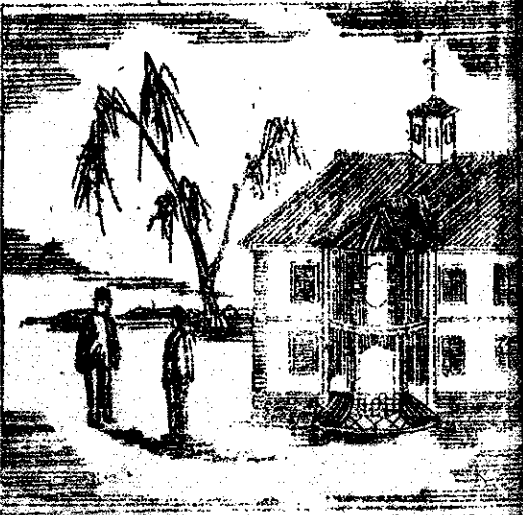
魚も、二つの、髻あるも、え、船く、水中を、泳ぐこと
 を得、○鯛も、奇麗なる
 魚にて、大海に住めり、
 鯛も、小魚にて、潮水又
 ち河に、住めり、
 總て、魚も、水を出づれ
 を、生を保つことを、得
 ざるものあり、



鳥も、二つの足と、二つの翼
 りて、多く、空中に飛び、又稀
 に、水上に、住むものあり、○
 獸類も、四足にて、肌は長き毛
 あり、○此魚鳥獸も、身體を、自
 由に、動かすことも、物を、思慮す
 ることあり、

人、能く地上に歩行し、又奇麗なる家を造りて、
 住居を、また船に乗りて、大海を渡る、しるも
 こと、空中に飛ぶこと能くせ、

天津神も、日月地球を造り、後
 人、獸鳥、魚、草、木を造りて、人を
 して、諸の支配を、ふさしめ、た
 り、故に、人、萬物の上におれを、
 能く心を正しくし、物事を考へ
 て、己れの業を、勤むべし、



汝、又、菓物の種類を、知れりや、○菓物の、葉を見て
 豌豆と、蚕豆とを、知り、總の形を見て、桐と、桑とを
 知るべし、
 總て、菓物に、え、種あり、豌豆、蚕豆、など、葉の中に

種あり、梨、李、橙の實を、肉の
 中に種あり、○種の食物と
 ふるもの、米、麥、豆、黍、稷の
 類ふり、肉の食物とふるもの
 の、梅、桃、梨、李、柑の實の類
 ふり、



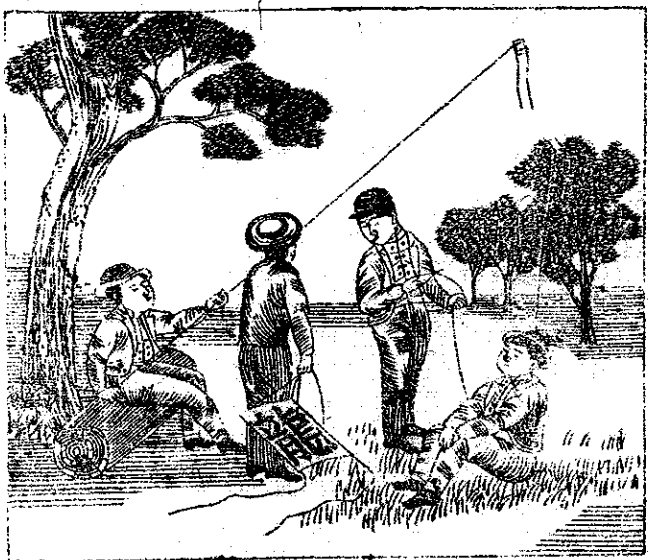
草木を、皆種より生え、種を、濕ひたる、土中に、置く
 とき、漸く、澎脹して、遂に、破裂し、其所より、芽を
 生む、

鹿も、山林に、住居する獸なり、この獸の牡は、角を、枝

を生じたる、角あり、牝には、角なし、其色は、茶色に
 て、白き斑あり、
 汝も、鹿を見たりや、鹿も、長き足ありて、走り、こと
 甚だ、速うふり、○多く、草木
 の葉を、食とし、或は、田野に
 て、穀物を、食することあり、
 此獸の角も、甚だ、堅くして、
 道具に、造るべく、又、其皮も、
 敷物に、造ることを得べし、
 我も、鹿を、高く、揚ぐることを、好むなり、○汝も、鳥の



飛ぶ如くに高く、爪を揚げ得るや、今この爪を高く



○一つの爪を樹の枝に懸れり、これを取らんと
思へとも、取り得ず、この爪を、皆勞をるも、其甲斐

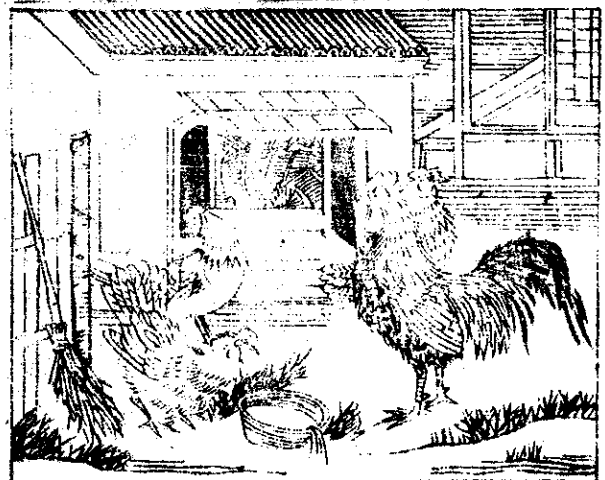
あまふあま、一人の小兒を、心を用ゐて、休む
をれり、

茲に、悪しき男兒あり、○汝も、この男兒の、帽の中
に、何る物を知れりや、これ、柿の實あり、此柿の
實を、此男兒の物とあらむ、隣家の物なるに、垣を
踰えて、盗み取れるあり、○今、男兒を、柿の實を、盗
み取り、垣を踰えて、逃げんとするを、數多の犬を、
こきを見出して、男兒を、捕へんとし、一匹の犬を、
男兒の、裾を噛へたり、よりて、男兒を、垣を踰え、去
ることを得ず、も、盗みたる、柿の實を、捨つるを

犬を、裾を離さべし、然れども、此男兒も、悪しき心のものゆゑ、これを、捨つること能えむ。○他人の物を、盗むことと、實に、悪しきことなり、善き小兒も、自分の物に、あらざれを、決して、これを、取ることふし、○常に、行状の正しきものも、幸ひ多く、正しからざるものも、幸ひを得ること能えむ、汝等、自分の物に、あらざれを、決して、心よ、これを得んと、思ふことふし、



茲に、四羽の雞と、米倉あり、○汝が見たる力のところ、此のよふるや、○家の、後、松あり、垣に、寄したる、簾あり、鳥の、飲水を入きたる、水鉢あり、汝、此鉢に、水ありと、思ふや、然り、此鉢にも、水を入れたり、何を以て、汝、水のあるを、知れりや、此鉢も、少し傾き、一邊の縁を高く、出でたるを、以て、水のあるを、知るあり、鉢の中に、水ありとも、若し、



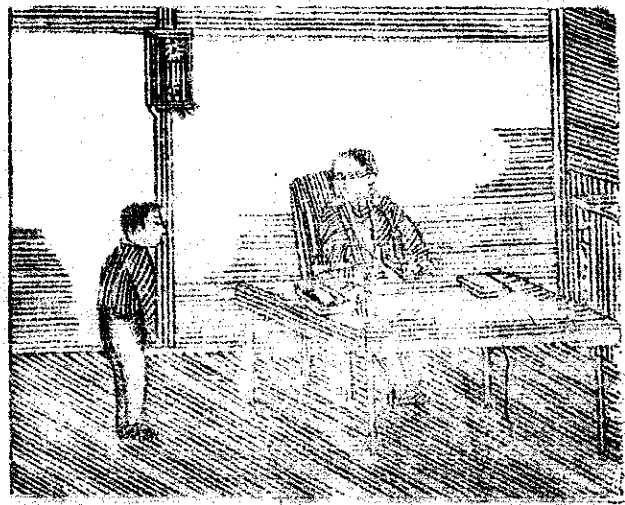
の目を、水より、低くけきを、見ること、能わざるべ
 一〇汝も、鳥の水を、飲むを見りや、鳥も、牛馬の如
 く、首を下げて、飲むこと、能わざ、亦まに一滴入
 るれを、首を舉げて、咽に入らざり、

此處に、如何なる場所と、思ふや、〇こまも、教會の
 傍ふるべし、雞も、巢の上ら
 んと、して、椰子を、傳ひ行く
 不り、〇椰子に、横木あり、こ
 まも、何ふるや、此横木も、椰
 子の隙あり、



汝も、雞の巢を見たりや、〇巢も、櫓の下に隠れて
 ある也、表に見ることを得ず、
 椰子の下にあるも、二羽の鷲あり、〇汝も、鷲の食
 るものを知れりや、〇汝も、小き鷲あり、
 汝も、茲に來れ、汝も、人用の書物を得たりや、〇吾
 私も、未だ、其書物を得ず、汝も、文庫の中を、捜せし
 や、然り、其處よも、あらざりし、今一應、搜まへし、書
 物不ければ、學ぶこと能わざ、
 又汝も、筆を見たりや、〇然り、私も、君の命せし如
 く、其筆を、文庫の上に、置きたり、〇汝も、其筆を用

かゝりや、○否、私を更に用ゐることあり、汝も其筆を取り來れ、汝に與ふべし、筆ふけけし字を習ふこと、能て汝、今日學校へ行きたりや、然り、私を今日學校に行きて、終日、誓言を爲し、先刻、歸り、然れど、汝を座に、就きて、書物を讀むべし、今日學びたることを決して、忘るべからば、



第四回

岸の上に、二人の少年ありて、三艘の船の岸に着くを見てを小り、○此船を十分に、帆を張りて、櫓の上に、旗を揚げたり、一人の少年云ふ、我の朋友、去年、先きの船に、乘りて、行けり、日を數ふれを、彼れの出立せしより、今日まで、殆ど一年に及べり、彼をの兩親も、日々、彼れの、



歸るを待てり、○今日患災ある顔を見ることを
 得て、大慶に思ふべし、まゝ彼男も、父母の患災ふ
 る顔を見たりを、定めて、大に喜ぶべし、
 彼船も、丈夫なる船にて、風雨に逢ふとも、破損な
 く、無難に、歸り來れを、船中に乗り込みたる、人々
 も、此船を、忝く思ふべし、
 人々が、遠き異國に行くハ、皆其國人と、貿易をな
 して、我國の利益を得んと、欲するなり、
 總て、鳥も、嘴の長きものと、短きものあり、○此嘴
 にて、食物を啄む、○鳥にも、穀物を食するものと、



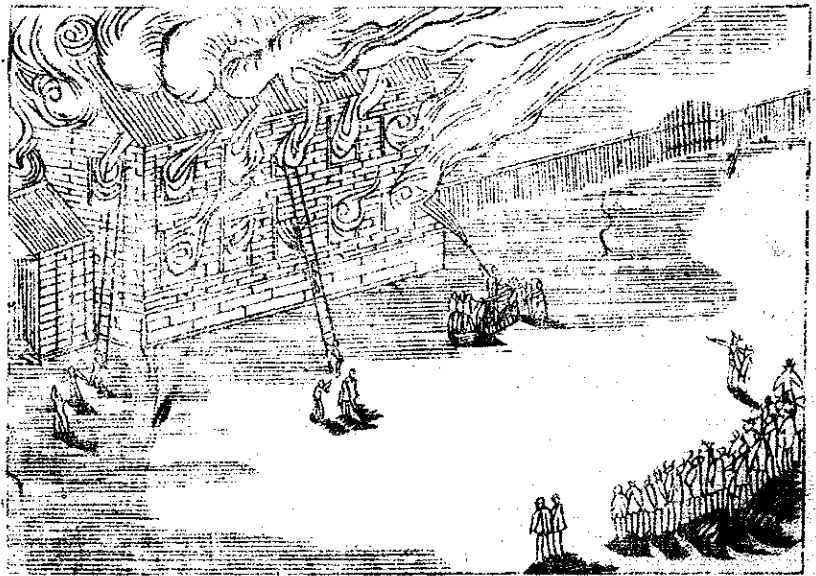
魚又も、蟲を、食するものあり、○鳥の目も、頭の左
 右に、あるゆゑ、一時は、兩方を見ることを得、○空
 中に、飛び、山林は、遊ぶ鳥あり、これを、林鳥といふ、
 ○水土に、浮ぶ鳥あり、これを、
 水鳥といふ、○鳥の足にも、四
 本の、指ありて、三本も、前まも
 り、一本も、後にもあり、然れども、
 啄水鳥も、前後、各二本の指あ
 りて、能く、大木を昇降し、樹皮
 の中に、住む蟲を、捜がし、食す、

此人は何故に立ちて居るや何を思ふて居るや
○此人を久しき以前に遠方に行きて今我家に
歸り來れるあり然きども其様全く昔に變り
たまむ驚けるあり
汝を破れたる壁と垣を
見たりや○さて此家の
斯くあり果てたる始末
を語し聞かむべし
此人の出立する前に一
人の小兒ありし此小兒



に至りて思きものにて或る日戯れ紙を焼きて
遊び居しが其火忽ち障子に燃えつき終る家會
まで焼け失せたり○今この人我家に歸り來
まども妻子を見ることを得ざる由縁に如何と
とも爲さべからず悲しと歎き居るあり
此人の心の中如何と悲しと思ふや○此人を早
く其妻子に逢えんことを願ふあり

此圖も今この人の家の焼くる所あり○汝の家
の内より燃え出で、窗より火と烟の吹き出づ
るを見しや○家に寄せ懸けたる梯子あり○人



よも、其身をも、失ふことあるかり。

と、梯子より上りて、火を消さんとす。○多くの人は、龍吐水よて、頻に水を注げり。然れども、火を消えはして、家も、終つて焼け落ちたまを、この家の人々も、もふ逃げ去りたり。

總て、小兒も、火を弄ぶべからば、避ちて、家倉を失ひ、遂

此れも、兎を逃がしたる、小兒の圖なり。○汝て、小兒の傍に在る、箱を知れりや、こまを、兎落しよて、前に、戸あり、こまよて、兎を捕へんと、まるときを、兎の入るべき不ども、戸を開き、細き棒にて、これを支へ、箱のうち、一切の、橋を、置くより、儲兎も、食を、求めんとして、行くとき、此箱の中に、橋のありを見て、落しあることを、知らむ、箱の中に入りて、食せんとす、橋も、糸にて、戸を支へたる棒に、結び付たきを、忽ち、戸を閉ぢて、兎も、逃げ去ることを得む。○此とき、小兒も、箱の戸の、閉ぢたるを見

て、喜び來り、鬼を捕へんとして、先づ戸を少し開
 きて、鬼の在るを窺ひ見んとき、○鬼は、戸の少し
 く開きたるを見て、忽ち、
 頭を出だし、自ら、戸を開
 きて、走り出で、逃げ去り
 たり。
 汝も、此鬼を再び來ると、
 思ふや、○否、此鬼は、落
 ちたることを、知れを、再び
 來ることあり



此圖に、開きたる、柔和なる、牛にして、此小兒に
 随ひて、歩めり、此小兒は、今牧場へ、牛を連れ行く
 あり、○何れも、次に、此小兒は、歩も、あから、書を読む



や、此小兒は、筆で、善きもの
 にて、學文を好みども、其家
 を、貧しきゆゑに、學校へ行
 くこと、能たむして、日々、仕
 事場に行くあり、然れども、
 學文を、あまんと、思ふ志、尤
 深けき、道を行く間も、書

物を讀むあり、又牧場に至りても、休む間て、書物を見ざることあり。○個様ある小兒も、行く未、賢き者にて、必也貴き人とあるべし。

悪しき小兒も、日々學校へ行けども、能く勉強せざりて、遊ぶことを好むあり、勉強せざる小兒も、行く未、愚うある者にて、賤しき身とあるべし。

雲雀が、麥畑の間に、巢を造りて、雛を育へり。○麥と已に熟して、蒔るべき時節にありたるに、雛も未だ自由に、飛ぶこと能はず。一日、雲雀の親鳥は、食を求めんとて、飛び去るとき、雛は告げて云ふ。

最早、麥を刈るべきときよふれり、も、農夫來りて、諾むことあらむ、能く其諾を聞き置きて、余に告げよ。

斯くて、親鳥の、歸りたると、雛の云ふ、今日、農夫が、其子と共に、來りて、明日、此麥を、蒔り取るべし、依て、近所の人を、雇はんと云へり、親鳥の云ふ、彼れも、農夫の身ふれども、自ら、業をふさぎて、近所の人を、頼む



也、必も猶豫をべし、明日を、此處より、恐るゝに、足らざる他人より依りて、事を行ふものも、決して、急を行ふこと、能えざるものあり、其翌日、又、親鳥を、巢を飛び去りしが、前の如く、雛の心を、用ゐると、告げたり。○已よして、親鳥が、歸り來りしとき、雛の云ふ、今日も、農夫が、其子と、共に來りしが、近所の人と、一人も、來らざれば、明日を、朋友親族を、頼みて、討るべしと、云へり、親鳥の云ふ、然り、農夫を、猶、他人を、頼むや、農夫を、急情者にて、頼りに、他人を、頼むに、我も、猶、此處に、止るべし。

さて、又、其翌日、親鳥が、飛び去りて、歸りたる時、雛の云ふ、今日も、農夫を、其子と共に、來れり、されども、朋友親族を、一人も、來らざる由を、最早、他人を、頼まむ、明日を、自ら、討り取るべしと、云へり、親鳥を、これを、聞きて、然らば、我等も、此處を、立ち去るべし、農夫が、自ら、討り取ると、決したるを、必し、日を、延ばさば、べからず、○親鳥のいへるを、實に、當れり、其翌朝、雲雀を、雛を、連れて、飛び去るに、農夫を、其子と共に、來りて、麥を、討り取り

第五回

今、花園に、善き種を蒔きて、こまを、生長せしめ、よ
き植物とふし、奇麗なる花を、咲かすべしと欲す
も、園中に、雑草を多く、生せしむるときは、蒔き
たる植物の種を、害して、生せしむざるべし、及に、雑
草を、盡く、抜き取るべし、

それ、男兒、女兒の、學校へ行きて、學ぶときも、能く
勉強して、讀む物を、理解せしめ、教師の教ふる
ことを、覺ゆるも、我心に、種を蒔くと同し、ゆゑに、
心を用ひて、其種を育ひ、能く、生長せしむべし、

惡念、惡業、心より蒔きたる、よき種を、害するもの
にて、實に、花園に、蒔きたる、植木の種を、害する、雜
草の如し、個様ある、雑草も、勉めて、抜き去るべし、
言多き、小兒も、學校に、行きて、能く、勉強し、能く、書
物を、覺ゆと謂へども、其行ひを見れば、更に、勉強
することも、なく、又、書物を、覺ゆることも、なく、個
様ある、小兒も、怠惰ものといふべし、善き小兒も、
勉強する、こと、多けれども、言へ、甚だ、少きもの、な
り、
此圖に、画ける人も、何を為すと、思ふや、○こまを、

花園の雑草を、抜き去る本
り

今、口に言ふ所と、行ふ事と、
違ひたる小兒を、譬へて、汝
に、教ふべし、それ、言多くし
て、事少き小兒を、雑草の、尚
ちたる、花園の如し、



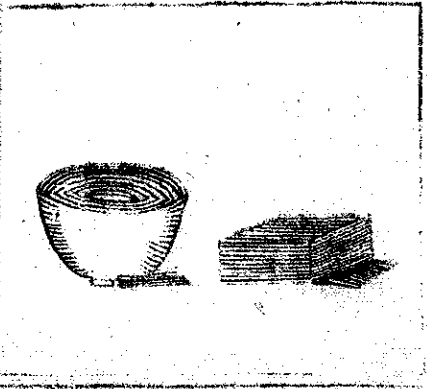
地ももとよきもの、おれども、善き種を、時々、おれ
をよき植物を生し、美しき花を開くことおし、又
芽の出でたるとき、能く培養せされし、生長を

ること能く、雑草を、これ又して種を、時々、お
れども、自ら、生長し、これを、抜き去らされ、大に
蔓りて、善き植物を、害し、終り、これを、枯らし、盡す
ものあり、

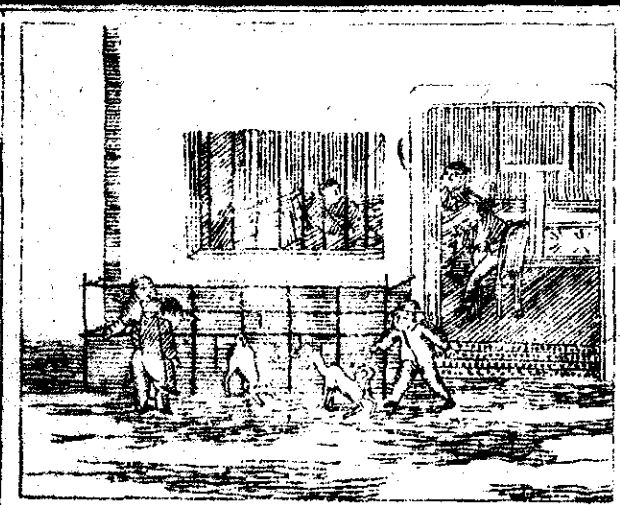
人の心も、もと、善きもの、おれども、善き教へを、聞
きて、これ、従えざれ、善き人と、成り難し、然れ
ども、悪念、悪業を、雑草の如く、甚だ、生し、易し、もし
此を、抜き去ることを、怠りて、増長せしむる
きて、良き心を、害して、終り、これを、枯らし、盡す
ものあり、

汝等、善き人と、ふらんと、欲せむ、此人の、雜草を、拔き去る如く、勉めて、惡念を、拔き去るべし。

茲は、圓き器と、四角なる器に、入るたる水あり、と、これと、同ト水ふれども、入るたる、器の、形ちよ、由て、圓き形ちと、四角なる形ちの水と、ふれり、人も、小兒のときと、水の如く、善き友に、交り、善き教へを、聞けり、善き人と、ふり、惡しき友に、交りて、惡しき語の、を、聞けり、惡しき人と、ふるふり、



茲に、數多の小兒あり、其遊ぶべきを見、るべし、家の内よ、居る、小兒を、日々、學校に、行きて、習古を、ものにて、家に、歸りて、居るときも、書物を、讀みて、



學びたることを、互ひ、問答して、これを、樂しきこと、思へり、此小兒等も、必也、善き人と、ふるべし、又、家の表に、出で、遊べる、小兒を、學校へ、行かざり、習古も、あさむるものゆゑに、犬を、噛み、合せ、棒を、打振り

て、危き遊びのこをふせり、此れ等も、必或、惡しき
もの、あるべし、汝等、善き人と、あらんと、思え、
能く、心を用ゐて、常に、善き友と、交るべし、必或、惡
しき、小兒と、遊ぶべからず、

汝等、事の正しうらざるを、知るとき、決して、行
ふべからざるとい、功あること、思ふとも、我心
に、惡しき業と、知るとき、決して、これを行ふべ
からず、

善うらぬ事を行ふのこを、惡しきこと、思ふべ
からず、縱令、行えども、心に行えんと、思へを、畏

惡事を、行ふこと、同し、我身に、利益あるとも
決して、虚言を、言ふべからず、虚言を、言ふて、得た
る利益も、他人の物を、盗したると、同様にて、終に
も、其身の害と、あるべし、故に、平生、常に、眞實を
以て、まべし、

常に、見もし、聞きもし、又も、爲せしことを、語らば、
決して、虚言を、いふべからず、他人より、聞きたる
ことを、人に、語らば、唯聞きしまゝに、語りて、少し
も、語りを、飾るべからず、

戯れども、虚言を、いへを、必或、眞實なることを、

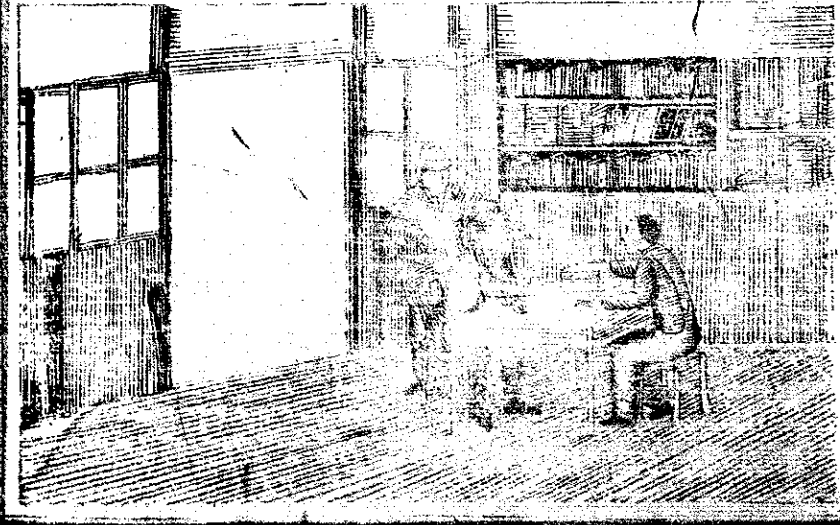
るときも人を、實と思ふべからぬ、
 かく一人の男兒あ
 りて、平生、狼が来り、
 狼が来り、誰の出で
 、救ひ給へと、大に呼
 びて、途を走れり、こ
 ん、真に、狼の来るにあ
 らば、他人を欺き、来
 らしめんと、欲まふ
 り、然して、人の来りて、



己を、救えんと、走るとき、欺き得たりとて、大に
 其人を笑ふ、
 斯くふれこと、度々あり、或る日、真に、狼が、来
 りて、此男兒を、喰えんと、大に呼びて、狼
 が、来り、救ひ給へといへども、誰も、又、虚言あり
 とて、これを、救えんと、出で来るもの、あらま
 れを、男兒を、終に、狼に、捕へらきて、喰ひ殺され、
 り、故に、平生、人を、欺くもの、適、眞實のこと、を、誰
 走とも、他人を、更に、信と、あさざるもの、あり、
 此處を、如何ある、場所、ありと、思ふや、○これ、を、書

物を賣る店あり

茲、三人の男あり、其帽を被
ぶりたる人、書物を買えん
とて、此處に來れるあり、此
人、既に一冊の書物を求め
て、隠しの内に入れたり、汝
其書物の端を見たりや、此人
は、机の上の書物を持てり、
今此人も、前よりある書物を見
て居るや、○否、此人は、机の向



ふも居る人を見るあり、○汝は、この人に、何を語
まと思ふや、○此人は、書物の價を問ふあり、



此圖に、於ける男は、其手に持てる書物を讀みて、
學びたることを、小兒に語り
て、聞かむ、この小兒は、能く
心を用ゐて、其語を聞くと思
ふや、○然り、此小兒は、其語を
能く聞くこと、顔色を見て、知
れり、此男の、語ること、書物
の中、尤、大切なる、箇條は、水に

此小兒は、能く其語を考ふるあり、此小兒の顔色を、見るに、愼みて、男の物語りを聞くと、見たり、○總て、人を喜ぶとき、悲むとき、怒るとき、皆其顔色に現る、もし、惡心あるとき、其顔色を見て、これを、覺り知るべし、故に、人の顔、心の善惡を、徴したる、書物の一種なり、○人を、決して、惡心を、抱くへうらひ、少しも、惡心あれば、口を、隠せども、其顔、忽ち、これを、他人に、示さるるに、人は、直に、其惡心あるを、知るものなり

第六回

汝は、猫を愛するや、犬を愛するや、○我も、犬の兒、又も、猫の兒の、遊び戯るゝを、見ること、を、好む、總て、昔、獸類を、小兒の如く、遊び戯るを、好み、猫の兒も、繩又も、鞠を、弄びて、能く、戯れ遊ぶ、ふふり、○犬、猫にても、年長いたるも、遊び戯ることを、好まざり、人、年長けたまを、決して、遊び戯るべうらひ、○老いたる猫も、猫の兒の、戯れ遊ぶを、見ること、を、好むども

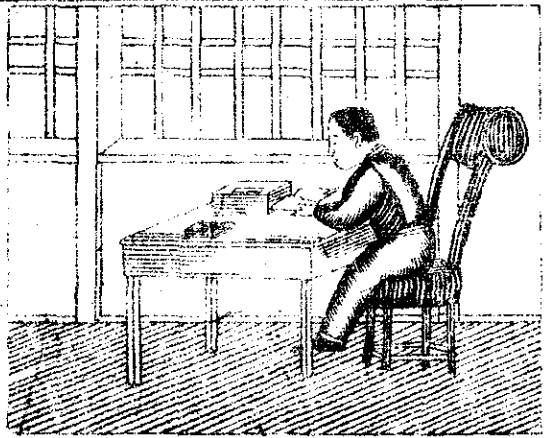


其身又、衝き當ること、好まじ。○老人は、小兒の遊ぶを見ることを、好めども、其身に、觸るゝことを、好まじ。故に、小兒は、遊ひ戯るゝこと、ありとも、老人の身に、觸れ、又、其、椅子、机など、に、た、決して、觸るべからば、

此小兒は、學校にありて、善き生徒あり。○汝は、此小兒の、學校に於て、書物を、學ぶを見しや。○我は、彼等の、書物を讀むを、聞きたり。

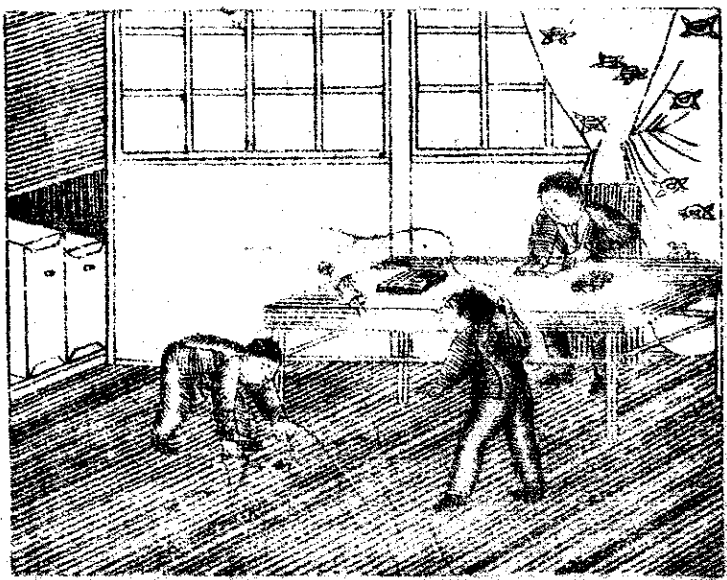
此小兒も、如何なる書物を、讀むしや。○彼れは、小學讀本、學讀本を、讀むたり。此小兒は、讀みたる、小學讀本

を、卷の一、あるや、卷の二、あるや。○彼れは、卷の一、を、讀むたり、我は、この小兒の、能く、書物を讀むことを、聞くを、實に、喜むし。まこと、あり、又、彼れは、能く、書物を、學ぶことを、好みて、能く、勉強し、遂に、善き人と、あらんことを、願ふ。○學文も、亦、智慧も、亦、善き人と、云ふこと、亦、よく、又、他人に、愛せらるゝこと、亦、よく、賣まるゝこと、亦、よし。



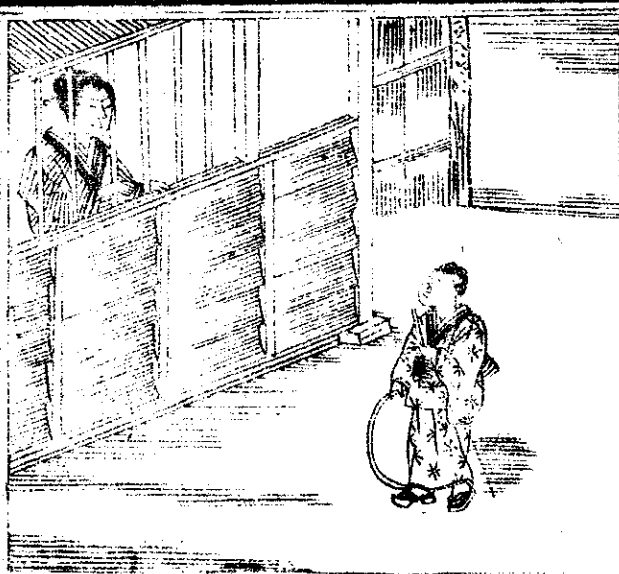
茲に、三人の小兒あり、一人は、机に向ひて、書物を

讀み、二人も、獨樂を廻し、遊
べり、この二人の小兒も、跳
り走る由ゑに、机を動かす、
机の上ある筆立を、倒せり、
一人も、學校にて、學びたる、
書物を、忘れざるやうにと、
思ふに、傍より、二人の、戯る、
小兒ありて、妨げを、おこな
す、の故に、此書物を、讀む小兒の、心の中も、如何に、
騒がしと、思ふや、○此小兒も、戯る、小兒も、化炭



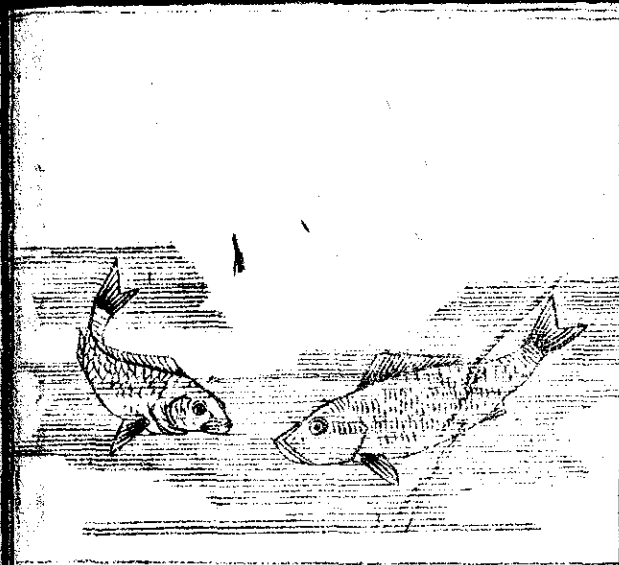
に行かんことを、願ふあるべし、
總て、人も自身に、好まざることも、人も亦好まざ
ること、思ひ、遊び戯る、にも、決して人の、妨げ
と、おるべきことを、おんべからむ、又、善きことよ
て自身に、甚だ、好むことも、人も亦、好むものと、知
るべし、又自分の、人に愛せらる、ことを、願ふ、
人を愛まべし、古き教へよ云、己の欲せざる所を、
人に施ま、ことおうれ、又、善道にて、己の欲する所
を、人に施まべし、○汝等、苟も、人の嫌ふことを、
おまべからむ、務めて、人の喜ぶことを、行ふべし、

茲に、遊歩に出でんとする、小兒あり、○汝て此小
 兒を、男子なりと思ふや、女兒なりと思ふや、○此
 小兒も、女兒なり、○何を以て、女兒なりと思ふや、
 ○此女兒の、衣裳を以て、女兒なるを知るあり、
 此衣裳も、甚だ奇麗なり、これ何を以て、作りた
 りと思ふや、○羽二重にて、作りたりと思ふ、この
 衣裳も、甚だ奇麗なるゆゑに、遊歩をせるとき、用
 ゐるに、餘り過ぎたり、
 此小兒も、何を持ちて、遊むんと思ふや、○こまを
 輪を持つゆゑに、輪を廻えりて、遊むんと思ふ



り、○此小兒も、善きものなるや、○我も、これを
 らば、今遊歩に出づるとき、其母の、呼び返すこと
 あらを、速う又、歸るものなるを、善きものなり、も
 ー、これを、呼び返すを、喜む
 べして、憂ふる、顔色など、現
 ぞと、きた、善きものにあら
 ぶ、
 汝も、此小兒を、幾歳なりと
 思ふや、○我も、六歳以上
 りと思ふ

此小兒も、未だ學校へも行かざるや、我も此小兒の、餘り遊歩を、好まば、て、書物を讀むことを好み、成長の後、善き人と、ふらんことを願ふなり。



此圖に、曲けるは、何物なりと思ふや、○これ、魚なり、汝も嘗て、生活したる魚を見しや、○然り、これを見しことあり、汝も嘗て、魚を捕へしや、何を以て、捕ふることを得し

や、○釣し、釣糸を以て、魚を得しことあり、魚も、水中に、住むもの、おれを、水を離るるとき、永く、其命を保つこと能はば、○魚にて、鬣と、尾の、るを以て、自由に、水中を游泳を、汝も、此魚の、鬣と、尾を見しや、魚の、休む、残る所なく、鱗あり、鱗も、鬣の如く、大からば、汝も、魚の、水中に、沈みたるときも、其目も、よく、物を見り、と思ふや、○何故に、魚も、水中にて、よく、物を見り、見ることを得しや、○も、水底にありて、物を見り、見しことを、得ざれば、必ず、魚も、岩石に、衝き當

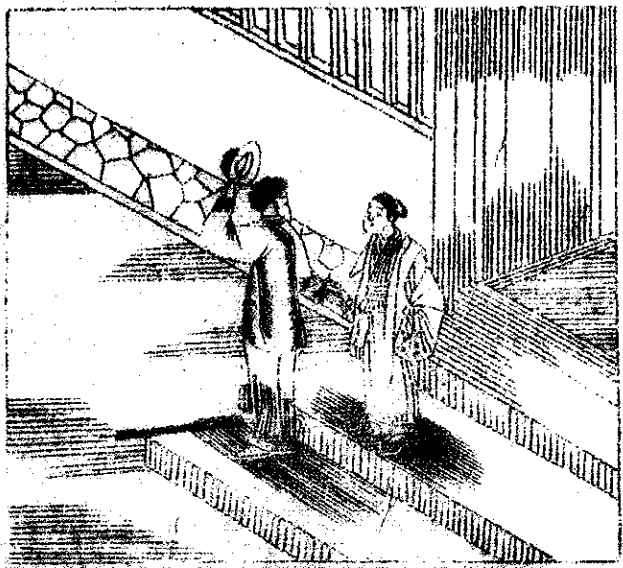
りて、其頭を傷害し、遂に、死するに至るべし、
人も、水底に沈みしとき、物を見ることが、分明
ならず、然れども、魚の目にも、甚だ分明あり、
それ、魚の目と、人の目と、同し、らば、水中に在り
て、能く物を見るべく、造りたまふども、人の目と、空
氣中にて、物を見るべく、造りたり、
魚も、水中に住むべく、造りたまふども、人ぞ、空気中
に、生活すべく、造りたるあり、

今この男子も、旅行せんと欲して、我家の階下を、
降りんとし、彼れの妹も、共に、階下を降り、互ひも、

首を贈答せ、別を悲むの、情態あり、

兄曰、謹で、我家を守れ、能く、其身を養へ、火を失ふ
べからば、病を生まべから
む、○妹曰、寒暑を犯まこと
かうま、久しく、他郷に止ま
ることあうれ、○相共に、
謀

兄又曰、予、彼郷に、遠まると
きて、速々に、音信して、安否
を報せべし、其とき、汝も、故郷の、安否を、報せよ、予



他郷に在る間も、只汝の安否を知ることをして、
樂みと云はべし、妹曰、相辭して訣る、
さて、此二人を如何あるものと思ふや、○これを
同胞の孤あり、孤とて、幼稚のとき、両親の死したる
るものをいふあり、

此二人を極めて、幼稚のとき、両親の死したる由
を、今自ら一身を立てんとし、

今この男子を、遠方へ行きて、久しく止まるをも
知るべし、然れども、互ひに、面會を得ざると
さて、手紙を贈答して、とも互に安否を知ることをも

得るあり、

も、此二人を、手紙を書くこと、能えざれば、如何
に、淋しきものあらざや、○實に、手紙を書くこと
を、務むべき業あり、

汝等、能く文字を習ひて、手紙を書くことを、學ぶ
べし、

殺生に至て、あしき事あり、たとひ、小き蟲にても、
無益に、殺むべからば、

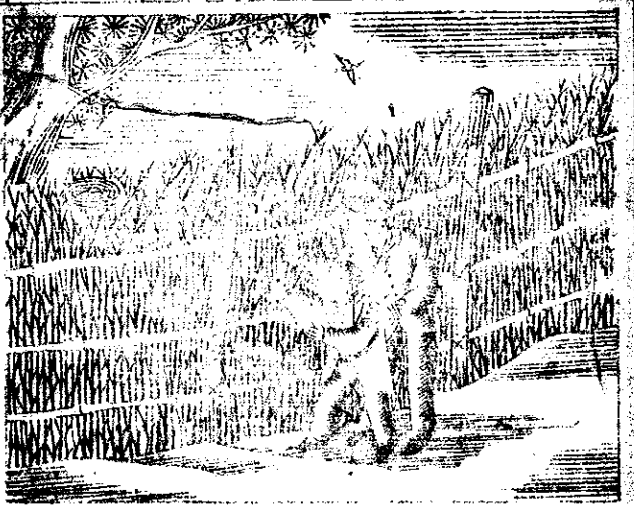
さて、小き蟲を、殺し、些細あることと、似たまど
も、無益に、殺さんと、思ふ心も、些細あらば、この心

て曰ふ、慈悲の心を失ひたるものおれた、漸く増
長するも、至り、大なる悪心となりて、畜類を殺す
のそあらざ、終つて、同胞の人をも、苦むることを
恐れざるべし、

此をより、種々の悪心、悪行ありて、後て、却て、我身
を苦むるも、至る、

故に、殺生を、誡むるを、慈善の人と、あるべき道に
て、終つて、善心、善行の人と、あり、身の幸福を得
べし、

むく、ある家に、兄弟の小兒あり、兄は七歳にて、



弟は五歳あり、兄は其才最
も、伶俐にして、其心も、優しき
ものあり、弟も、よき性質なれ
ども、歳少ふゆゑ、未だ博く
物事を知らず、動も、人を人
情に、違ひたる、怒き振舞を、ふ
まことあり、

ある日、兄弟ともに、野邊に出で、遊び、とき、雛
に、小鳥の巢あり、親鳥も、人の來るに、驚きて、飛び
去る跡に、兄弟も、巢の中を、窺ひ見るに、雛三羽あ

り、其の悦びて、雛を取り、我家に持ち帰らんとは
 然るに、見えてこれを止めて曰、鳥の巢を取ると宜
 からず、雛鳥の、其子を愛するを、我父母の、吾等
 を愛し給へるが如し、今この雛を取り去れば、親
 鳥の悲之を、如何ならん、恰も、我家に、悪人の來り
 て、我等兄弟を捕へ去るとき、父母の悲を給ふや
 如くあるべし、

まこと、雛を其親鳥の養ひに、由りて、生長せるもの
 にして、子供の手に、かゝりて、決して、育ち難き
 ものなり、

されを、今、この雛を、巢の中に置き、自由な飛びて、
 餌を、求むることを得るまで、生長せしむることを
 道理ふれと、丁寧に、諭しければ、弟も、今を、その
 て、合點し、小鳥にても、無慈悲な、扱ふべからざる
 の理を、知りて、遂に、兄の諫めに、随ひたり、

む、山陰中納言といへる人、九州へ下らん
 せし、途中にて、漁師の、大なる、魚を、殺さんとある
 を、見て、不便のこと、に思ひければ、こゝを、買ひ取
 り、海に、放ちたり、其後、中納言は、二歳に、ふりたる
 小兒を、伴ひ、海上を、渡りしとき、乳母、過ちて、小兒

を海中に落したり、中納言
 を悲きこと、思へども深
 き海底に沈まけきを如何
 にとおぼはべき手術なく、
 只海面を窺ひ居たるに、暫
 くして小兒を再び浮み出
 せられ、不思議のことに
 思ひ但見れども前に放ちし
 る籠を、巳の甲の上より小兒を載せて、浮み出でた
 ることなれども、中納言大に喜びて小兒を取り揚



げ見ると、怪我さへなく、所りといふ
 實に、畜類よても、慈悲の取扱ひをなせむ其恩を
 報うる心あり、況や同胞の人に交るに如何に
 て、慈悲の心を失ふべきや

小學讀本卷之二

機



山
 樹
 屋
 所

野
 舍